



ねらい

自身のものの見方・捉え方の傾向を知るとともに、それは、個人の体験や経験の影響により一人ひとり異なっているものであることに気づく。

インターネットの特性について理解することで、インターネット上では自身の偏見が強まったり、誹謗中傷をはじめとする人権侵害のハードルが下がる危険性があることを学ぶ。

準備物

- ・ワークシート1・2・3 各参加者につき1枚
- ・筆記用具(参加者各自準備)

会場

会場の大きさや参加者数に合わせ、2~5人程度が1グループになるよう机・椅子を配置する。

プログラムの流れ

時間	活動名	活動のねらい	準備物
5分	1. イントロダクション、アイスブレイク 「後出し負けじゃんけん」	・自己紹介とプログラムの説明。 ・研修のねらいについて共通認識をつくる。 ・コミュニケーションをとりやすい雰囲気づくり。	なし
20分	2. ワークショップ1 「わたしの見方・捉え方」	・各個人のものの見方・捉え方の違いに気づく。	ワークシート1
25分	3. ワークショップ2 「ものの見方・捉え方とインターネット」	・インターネットの特性や危険性を学ぶ。	ワークシート2
10分	4. まとめ 「ネットが平和に変わる10か条」	・インターネットと適切に付き合い、お互いの人権を尊重し合うために求められることを考える。	ワークシート3

展開

進め方	留意事項
<p>1 イントロダクション、アイスブレイク 「後出し負けじゃんけん」</p> <p>所要時間 5分</p> <p>●ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介とプログラムの説明。 ・研修のねらいについて共通認識をつくる。 ・コミュニケーションをとりやすい雰囲気をつくる。 	

進め方

留意事項

① 講師自己紹介

② 研修ルールとして(「参加・尊重・守秘」)を提案し、研修のねらいを伝える。

「参加・尊重・守秘」の提案は、次を参考にするとよい。

- ・参加……無理をせず、自分のペースで参加する。
- ・尊重……自分の意見も相手の意見も大切にする。
- ・守秘……個人的なことは、この研修だけに留める。

③ グループを作り、参加者同士が自己紹介する。

④ ペアを組み、先攻・後攻を決める。

⑤ 進行役(先攻)と参加者全員(後攻)で手本をやってみる。



「まず、『じゃんけん、ぽん』と言いながら、先攻である私がグー、チョキ、パーのいずれかを出します。次に後攻である皆さんが『ぽん』と言いながら少し遅れてグー、チョキ、パーのいずれかを出します。この時、先攻に負ける手を出したら『勝ち』、先攻に勝つ手を出したら『負け』です。」

⑥ 各ペアで3戦実施する。



「それでは、ペアで実践していただきます。3戦やって攻守を交代し、また3戦やります。『勝ち』の回数(後出しで負けた回数)が多い方が勝者です。」

⑦ 進行役が結果を共有する。



「勝った人は手を挙げてください。はい、皆さん拍手!」

⑧ 活動の振り返りとワークショップ1の導入。

■ 振り返りのポイント

- ・「じゃんけんは勝つもの」といった認識を皆持っている。
- ・前提として捉えてきた意識や行動を変えるのは難しい。
- ・次のワークショップ1では、ものの見方・捉え方について、深めて考える。

2 ワークショップ1 「わたしの見方・捉え方」(ワークシート1)

所要時間 20分

● ねらい

- ・各個人のもの見方・捉え方の違いに気づく。
- ・文字によるコミュニケーションでは、直接話す場合より、個人の見方・捉え方の違いが生じやすいことに気づく。インターネット上のコミュニケーションのすれ違いは、各個人の見方・捉え方の違いから起こることを学ぶ。

- ・ペアが成立していない人には、ペアづくりの手助けをする。
- ・かけ声のテンポを速くしたり遅くしたりするよう先攻に促す。
- ・失敗も楽しむよう声かけをする。
- ・うまくコミュニケーションがとれていないペアがいる場合は、個別に声かけをし、コミュニケーションを促進させる。

進め方

留意事項

① グループを作り、ワークショップ1の流れや内容を伝える。(3分)

- ・座席近くの人4人程度でグループを作る。
- ・流れは次の通り。
 1. 個人でワークシートに記入する。
 2. グループで意見交換をする。
 3. グループごとにまとめた意見を全体で共有する。
(進行役がいくつかのグループをインタビュー)

② 個人でワークシートに記入する。(4分)

- ・進行役がワークシート1の文章を読み、問1～3に回答を記入してもらう。

③ グループディスカッションをする。(8分)

- ・問1～3の回答を1人ずつ発表する。
- ・発表された内容で、他者と自分との見方・捉え方の違いや感じた点等を意見交換する。

④ グループディスカッションを共有する。(3分)

- ・進行役がディスカッションの内容を3～4グループ程度インタビューする。

⑤ 小まとめを行う。(2分)

- ・小まとめとして次の解説ポイントを参考にしながら、ものの見方・捉え方を解説する。

■ 解説のポイント

- ・他者の言動について自身がどのように感じ判断しているのかを知るとともに、同じものを見ていたとしても、その見方・捉え方が人によって異なることに気づく。
- ・特に文字によるコミュニケーションでは、個人の見方や捉え方による違いが生じやすいことを伝える。また、インターネット上では文字による情報伝達が多いため、同じ表現でも捉えられ方は様々であり、気を付ける必要がある。
- ・こういった個人の見方・捉え方には、自身も気がついていないゆがみや偏りがあり、育つ環境や集団の中で知らず知らずのうちに身に付けている既成概念や固定観念がある。それが「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」ということ伝える。

・記号や顔文字といった情報から相手の気持ちや状況を想像するように促す。

・各発言に対して、自分であればどのようなイメージを抱き、どのような気持ちになるのか、意識するよう促す。

・P19～20「研修にあたっての参考資料」に記載のアンコンシャスバイアスを適宜紹介する。

3 ワークショップ2 「ものの見方・捉え方とインターネット」(ワークシート2)

所要時間 25分

●ねらい

- ・ものの見方や捉え方の違いが、インターネットの特性によって、人権を侵害してしまうことにつながる危険性を学ぶ。

① ワークショップ2の流れやディスカッションの内容を伝える。(2分)

流れは次の通り。

1. 個人でワークシートに記入する。
2. グループディスカッションをする。
3. グループごとにまとめた意見を全体で共有する。
(進行役がいくつかのグループをインタビュー)

② 個人でワークシートに記入する。(3分)

- ・進行役がワークシート2の文章を読み、問1～4に回答を記入してもらう。
- ・また「オンライン脱抑制」について、P19～20「研修にあたっての参考資料」をもとに説明する。

③ グループディスカッションをする。(12分)

- ・問1～4の回答を1人ずつ発表する。
- ・他者と自分との見方・捉え方の違いや感じた点、もっと深めて話したい点等を意見交換する。

④ グループディスカッションを共有する。(5分)

- ・進行役が、ディスカッションの内容を3～4グループ程度インタビューする。

⑤ 小まとめを行う。(3分)

- ・小まとめとして、次の解説のポイントを参考にしながら、インターネットの特性や危険性を解説する。

■解説のポイント

- ・インターネットの特性や危険性として、ワークシート2オンライン脱抑制をおさらいとして改めて紹介し、例としてワークシートのEの発言などが、該当すると考えられる点を伝える。また、本教材に関わるキーワードとしてフィルターバブルやエコーチェンバーといったキーワードを紹介する。
- ・インターネット上では、同じものの見方や考え方にばかり触れることや、同じ考えを持つ多くの人から支持されることで自身の偏見が強まり、誹謗中傷をはじめとする人権侵害のハードルが下がってしまう危険性があることを伝える。
- ・安易な情報拡散への加担は、誹謗中傷を増幅させる力になることに気づく必要がある。

・「×市」に具体的な場所を想定しながら考えてみるように促す。

・小まとめは解説のポイント以外に、P1～4「インターネットと人権侵害」やP19～20「研修にあたっての参考資料」を参照して伝える。また、補足資料として参加者に配付してもよい。

4 まとめ

ネットが平和に変わる10か条

(インターネットと適切に付き合うために必要なこと)
(ワークシート3)

所要時間 10分

●ねらい

- ・インターネットと適切に付き合い、お互いの人権を尊重し合うために求められることについて考える。
- ・インターネットとの付き合い方について、自身と向き合ってみるとともに、それを形にすることで意識化する。
- ・プログラム②の振り返りを行いながら、インターネットを使用するうえで、インターネットを凶器にせず、お互いの人権が尊重されるために、必要な心がけを身に付ける。

① まとめの流れや内容を伝える。(1分)

流れは次の通り。

1. 個人でワークシートに記入する。
2. 何人かに川柳をインタビューし、共有する。

② 個人でワークシートに記入する。(3分)

- ・進行役が文章を読み、記入してもらう。

③ 川柳を共有する。(3分)

- ・何人かにインタビューし、共有する。

④ ワークショップの要点を振り返る。(3分)

- ・振り返りは、解説のポイントや、本研修のねらいを参照し、伝える。

■解説のポイント

- ・誰もが被害者にも加害者にもならないようインターネットを正しく利用し、お互いの人権を尊重するために必要な心がけを各自で日頃から意識するように伝える。
- ・加えて、インターネットの特性・危険性を理解し、適切に使っていくことで、インターネットが人権侵害を起こすツールではなく、生活を豊かにするツールとなることを伝える。

・本研修で話し合っ
て感じたこと、気づ
いたことを振り返り
ながら記入してもら
う。